

周辺施設との連携に係る事務局案

1. 共通

周辺施設の諸室の利用予約については、それぞれの機能を十分に発揮できるよう一体的に管理するのが望ましいと考えます。

このことから、連携した諸室の利用予約システムを整備します。

2. ぷらと

本施設の会議室については、商工会をはじめ、ある程度の利用があり一定の利用率を維持しています。

一方、研修室（和室）の利用を見ますと利用率はそれほど上がっていない状況にあります。

（仮称）生涯学習センターでは和室の配置を予定しており、これまでの町民の意見等を踏まえると、隣り合う施設で和室を用意する必要性は低いと考えられ、（仮称）生涯学習センターでは茶室の整備も予定されていることからそちらを優先し、本施設の和室については他用途にも使えるものに改修するというものを検討します。

また、現在、一般業者の物販等に中央公民館、マルチメディア館も使用されていますが、今後、（仮称）生涯学習センターを「文化活動の拠点」、ぷらとを「商業を主体とした交流の場」、マルチメディア館を「中高生が集える場」と色分けし、物販等については、ぷらとに集約するよう整理します。

3. マルチメディア館

本施設の設置目的である「高度情報通信社会に対応した地域情報化を推進し情報化による町民生活の向上と地域の活性化を図る」という点については、通信インフラの現状を考えると達成されたとの意見も多くあげられています。

このことから、抜本的に施設のあり方を見直すことも視野に検討した結果、現状の中央公民館の諸室の利用実績と高校生アンケートの結果を踏まえると、例えば、高校生から音楽のための防音部屋の利用が希望されていますが、現状、公民館ではカラオケサークル等の利用も多く、（仮称）生涯学習センターで整備する防音の部屋を高校生が満足して利用できるか難しい部分も予想されます。また、高校生から勉強できるスペースが希望されていますが、（仮称）生涯学習センターでは、現在整備する予定はありません。

したがって、本施設を今後「中高生が集える場」と位置づけ、中高生が中心的に利用できる音楽活動等のための防音部屋や落ち着いて勉強等ができるスペースを整備し、市街中心部に中高生が数多く集える場を提供します。

また、本施設のホールは、管外の文化施設に見られる「小ホール」としての利用が見込まれ、現在、中央公民館において、「ピアノ発表会」「合唱会」が100人未満の規模で相当数行われている状況を鑑み、その受け皿として本施設ホールを活用し、また、それに伴う設備改修を検討します。